第６５６号

刀剣と歴史

刀剣と歴史
―明治四三年創刊―
平成１６年
１月号

特定非営利活動法人
日本刀剣保存会
NPO
SOCIETY FOR THE PRESERVATION OF THE JAPANESE SWORD
NO.656 JAN. 2004

ana

: Sakakura Gennoshin Terukane
e: Enpo 9 Nen 8 Gatsu Hi
gust, 1681)
asa: 2 shaku 3 sun 1 bu Sori: 4
3 rin
s sword, with its saki-zori, has a
erful shape. The kitae is an
ie with a fair amount of masame
ed within. There are beautiful,
cate, carefully applied ji-nie. The
ion begins with a sugu-ba
idashi, becoming a koshi-hiraita
un-midare. There are nie within
hamon, and fine sunagashi. The
s beautifully bright. The boshi is
a with a ko-maru kaeri. The
ago is ubu, the yasuri-mei are
kai, and there is a suri-dashi
ent. This smith signed Echigo no
ni Kanesada; he changed his mei
Sakakura Gennoshin Terukane in
ruary of Enpo 8 (1680). While
usual hamon seen is a toran-ba
a gunome-midare having straight
ions between the valleys, with
omidare-ba and yahazu-ba
uences, this is a later work with
ndid workmanship in which the
lity resembles Sukehiro.

Mr. Eguchi Soshin

Two Owari Tsuba

The first, with a tempered iron "rotted" ground, a pounded rim, and a pine needle motif, is signed Hoan

Height: 7.9 cm Width: 7.7 cm

The second, with a hammered ground, is signed on the omote: Inuyama ju Daisencho Michiaki m
tantetsu ura: Futago Yama junin Norisuke saku

Height: 7.6 cm Width: 5.8 cm
From the December, 2003 Shinsa

The first of these tsuba is an Owari tsuba, a representative Hoan work. The work style is similar to Not
,Yamakichi, and other tsuba makers from the same location. Artistically, as well, I think that from
workmanship we can see the exchange that took place.

Hoan tsuba, belonged to Kawaguchi group, are members of the same group as Kaneyama tsuba and Ov
sukashi tsuba, but at last, Hoan become a distinct style. This tsuba is well forged, and the motif is rende
very naturally. The workmanship in forming the beaten mimi is excellent. Without a Hitsuana (
original), we can easily feel how it was lovingly passed down. However, while even among Hoan tsu
this ranks highly I think, regretfully prior carelessness (stripping rust) in preserving it has lead to l
surface. It is a bit like the old story about the white rabbit of Inaba that lost its hair. The present owner lo
it like a son, and is diligent in taking good care of it. It will be returned to its former condition and I
greatly looking forward to that. I believe this tsuba will take its place among the fine tsuba of Hoan,
tsuba lovers will come to drool over it.

Futago Yama Norisuke was well known for making copies of Nobuie and old Owari tsuba, and he
unique even among the tsuba artists of the Bakumatsu period (end of Edo). While I felt in the passed
Norisuke's jitetsu has a particularly well forged, I am convinced this time with this item with mei for s
Michiaki was a student of Michitoki of Aizu when he was working in Inuyama. This tsuba' s (Norau
condition is not good; however this iron gives feeling of polished river stone.

(Hiroshi Oha

尾張鐔二題

鉄焼手扇らかし地、打返し耳松葉散らしの図、銘　法安

縦　七・九センチ　横　七・七センチ

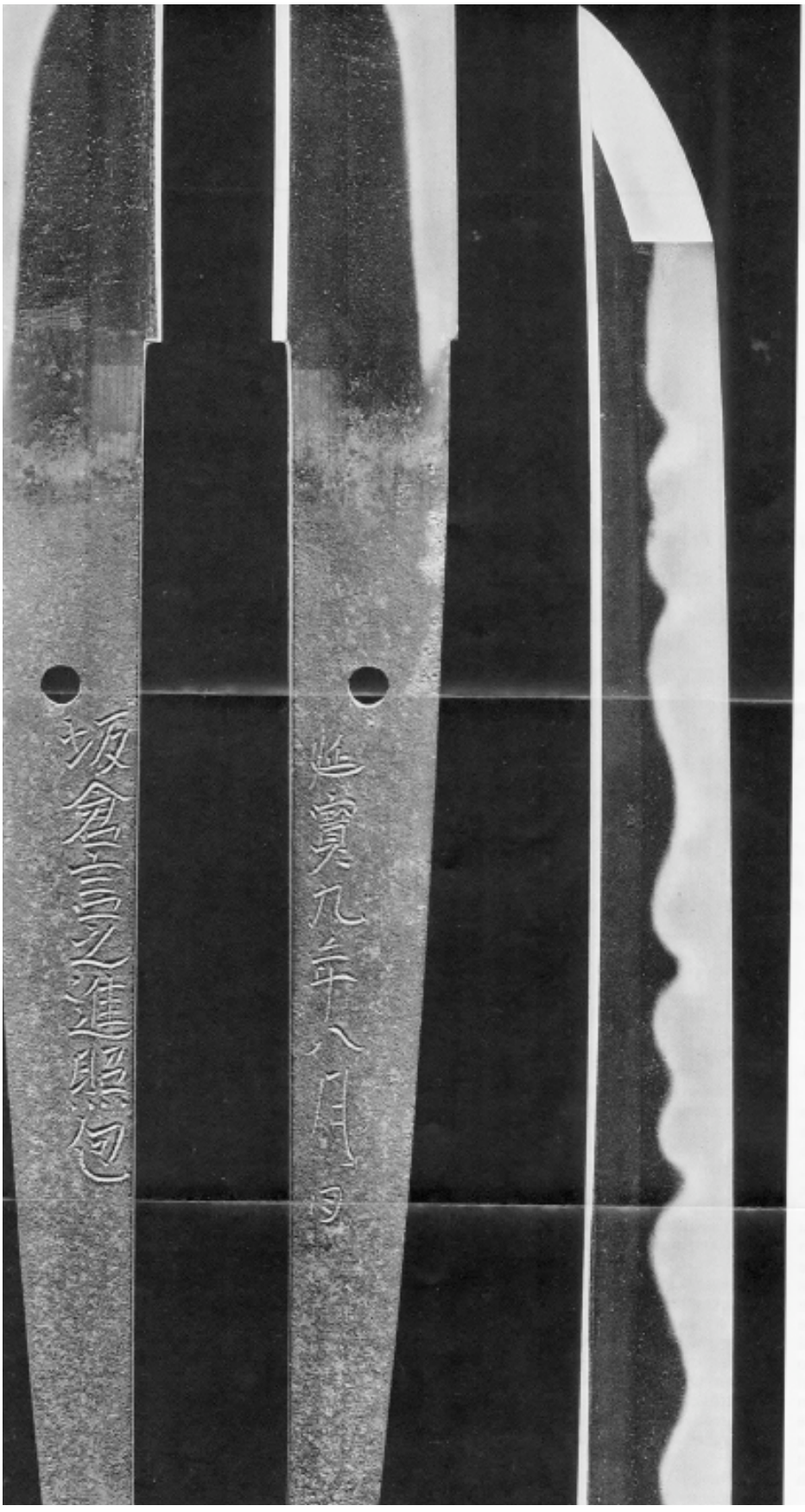
鉄地目地、銘・表　犬山住大山烏道暁以鍛鉄　裏・二子山住人則亮作

縦　七・六センチ　横　五・八センチ　　十二月審査出品

第一図の鐔は尾張鐔の製作者たちの代表法安の鐔であります。作風は信家や山吉など同郷の鐔工とは、技術的にも交流があったことが作品からも汲み取れると思います。

法安は川口氏という金山鐔、尾張透かしの鐔工群の一類であったが、やがて法安流の作風を創案して一家をなした。この鐔は鍛えもよく焼手腐らかしによる松葉の模様も自然であり、耳の打ち返しも上手で、そのうえ無傷で伝来したのはよほど大事にされたからであろうと察する。法安作鐔の中でも上位に置かれるのではと思うが、惜しいかな鐔の保存方法を知らない者が、本来の錆をきれいに落としてしまい、因幡の白兎（日本の古代神話。毛を失ったウサギの物語）状態であったそうである。現在所有者は我が子を慈しむように手入れに励んで、現今は大分昔日の面影を取り戻しつつあるので、これからが楽しみである。昔日の鐔が定着した時は法安の名鐔の仲間入りをして、愛好家に垂涎の一枚となることであろう。

二子山則亮は信家など尾張古鐔の写しものを得意としていて、幕末の鐔工の中でも特異な存在である。則亮の地鉄は珠のほか鍛えが良いと感じていたが、この度の審査に貴重な銘がはいった鐔が出品され納得のいくことが出来た。道暁は、陸奥は会津の道辰が犬山に駐鍛したときの弟子の一人である。この則亮は手置きがあまりよくないのだが、鉄味などは流石と思わせる。　（大橋　博）



長さ　二尺三寸一分　反り　四分三厘

刀は先反りがつく力強い造り込み、鍛えは小板目やや柾まじり、細やかな地沸つき細美。刃文は直ぐ焼出し、腰の開いた湾瀾乱れで、刃中の沸むらなくつき、細やかな砂流しつき
る。鋩子は直ぐ小丸返り、中心は生ぶ、筋違い鑢に磨出しがみえる。
工は越後守包貞と銘しているが、延宝八年二月坂倉言之進照包と改め、湾瀾刃に互の目乱の谷が直がかり「箱掛る互の目刃」と「矢筈掛る刃」を交えるものを見るが、本刀は後者
出来で助広を彷彿させる見事さがある。

目次

巻頭折込　坂倉言之進照包
尾張揮二題　法安　則亮

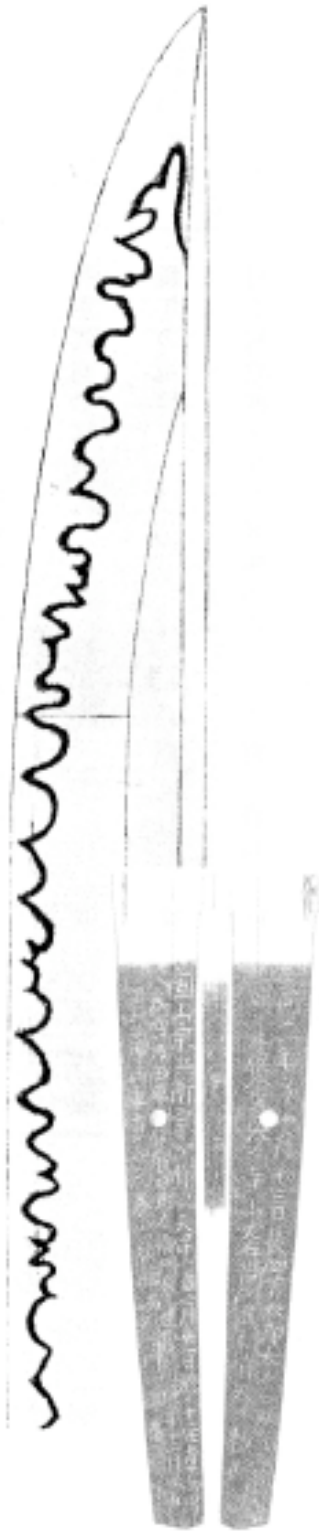
特別鑑賞会広告　02
新年の祝辞　松原　仁　12
誌上鑑定四十年の経験から　宮野　貞司　13
武将と愛刀十六　牛歩老人　15
刀剣・装剣具審査情報　26
本部研究会報告　29
誌上研究会　46
本部からの情報　61

Monthly Research Meeting　29
Shijo Kantei Quiz　46
Sword Buzz　*Chris Bowen*　60

日本刀剣保存会
SOCIETY FOR THE PRESERVATION OF THE JAPANESE SWORD

平成十六年度全国役員総会　特別鑑賞会

名刀展



平成十六年　二月十四日（土）
午後一時～

東京都品川区西五反田三―二―十三
「目黒さつき会館」

主催　特定非営利活動法人　日本刀剣保存会

お問い合わせ　03(5424)0543　support@nthk.net　http://www.nthk.net

鍔　銘　安親　木賊狩りの図　↓

Tsuba Yasuchika Togusa - Gari Zu

他、名刀、装剣具多数出品予定

当日、御自慢の所蔵刀剣を出品し、披露したいという剣友の方おられましたら、大歓迎いたしますので、是非お持込ください。

事務局に事前にご連絡くだされば幸いです。

二月の月例本部研究会は、役員総会の日程に合わせて、特別鑑賞会といたします。

当日の日程

平成十六年二月十四日（土）

午前十一時～　役員総会

午後　一時～　特別鑑賞会

午後　五時～　懇親会

参加費　五千円（懇親会費用含）

参加自由ですので、剣友諸氏お誘い合わせの上、是非ご来場下さい。

目黒さつき会館案内図

特定非営利活動法人日本刀剣保存会定款

第1章 総則

（名称）

第1条 この法人は、特定非営利活動法人日本刀剣保存会という。

（事務所）

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都品川区中延三丁目13番17号に置く。

2 この法人は、従たる事務所を東京都品川区上大崎一丁目23番1号に置く。

（目的）

第3条 この法人は、世界的な文化の遺産である日本刀剣類の保存、研究に関する事業を行ない、また全世界に日本刀剣文化の普及啓蒙を図る事業を行なうことで、文化遺産である日本刀剣の後世への継承と、日本文化の理解・振興に寄与することを目的とする。

（特定非営利活動の種類）

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の種類の特定非営利活動を行う。

(1) 文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動

（事業の種類）

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として、次の事業を行う。

(1) 刀剣に関する研究
(2) 刀剣類の鍛造、研磨、拵え装剣具、刀剣に関係する古文書などの研究
(3) 鑑刀会の開催
(4) 刀剣類保存の審査会の開催
(5) 機関誌、刀剣に関する書籍の発行
その他本会の目的を達成するために必要な事業

第2章 会員

（種別）

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

(1) 正会員 この法人の目的に賛同し、入会した個人
(2) 賛助会員 この法人の目的に賛同し、賛助するために入会した個人及び団体

（入会）

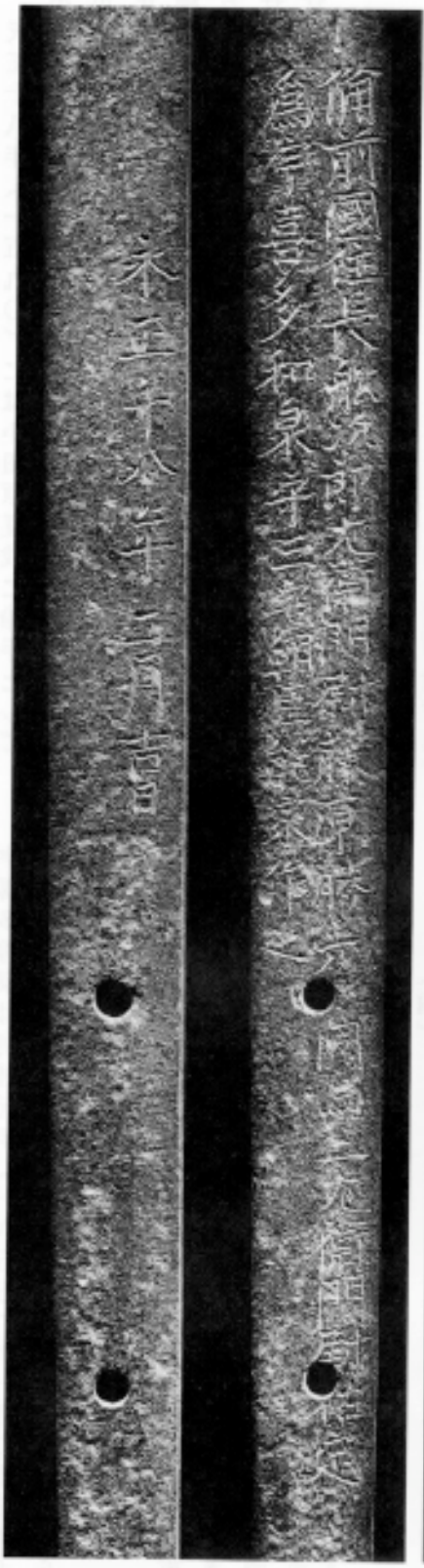
第7条 会員の入会について、特に条件は定めない。

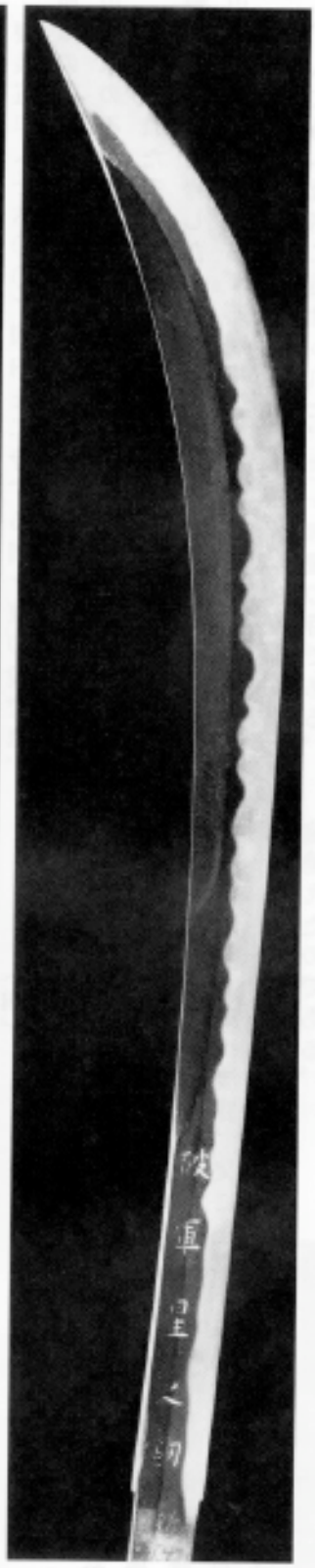
2 正会員として入会しようとするものは、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとす

宇喜多能家の薙刀

薙刀　表銘　備前国住長船次郎左衛門尉勝光
同　与三左衛門尉祐定
宇喜多和泉守三宅朝臣能家作之
裏銘　永正十八年二月吉日

長さ　二尺一寸三分五厘　反り　一寸七分五厘





↑　定祐尉門衛左三与・光勝尉門衛左郎次船長住国前備

Bizen no Kuni Osafune Jirozaemon jo Katsumitsu/Yozosaemon jo Sukeyasu

Report from the Monthly Research Meeting
IN TOKYO JAPAN

月刊 本部研究会報告

十一月研究会

於　東京都品川区「目黒さつき会館」
日時　平成十六年　十一月　十五日
　　十二月　十三日

一号刀　刀　河内守国助（二代）

長さ　二尺三寸　反り　四分弱

（造り込み）　本造り、庵棟。重ねは厚めで、元幅と先幅に開きがあり、中切先がやや詰まり心で、反りは浅めの寛文新刀の姿。

（鍛え）　小板目肌よく錬れて詰み、地沸よくつく。

（刃文）　直ぐに焼き出し、大きく湾れた刃取りの丁子乱れに互の目乱れが交じり、処々拳形丁子となり、足よく入り、匂口が柔らかに小沸よくつく。

（鋩子）　直ぐやや湾れ心に小丸に深めに返る。

（中心）　生ぶ、鑢目は大筋違い。

中河内（なかごうち）国助の典型作である。

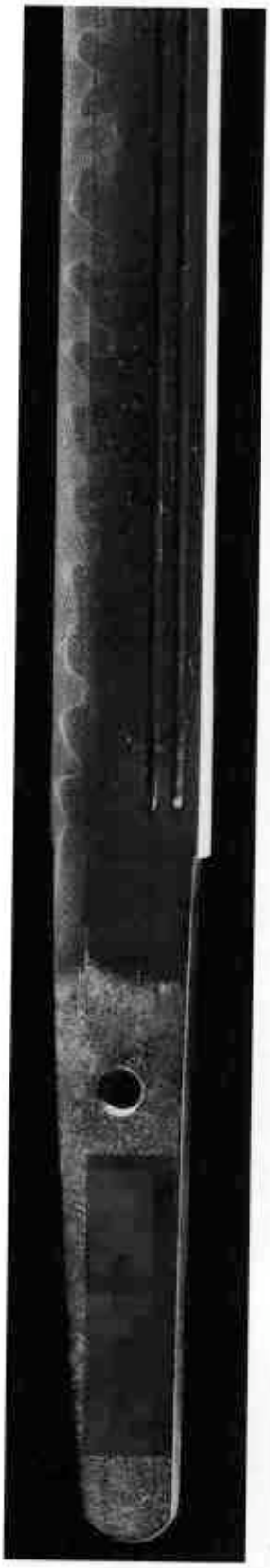
This Issue's Kantei Quiz

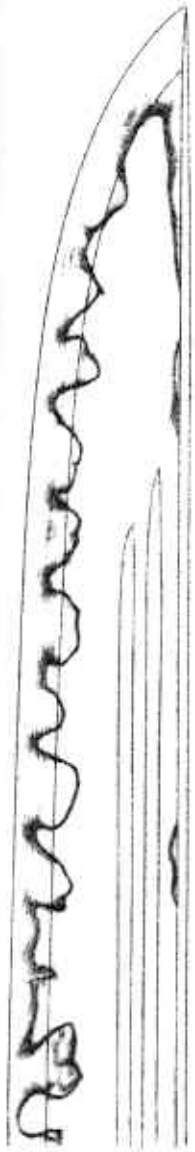
今月の出題

課題　第一問

長さ　九寸

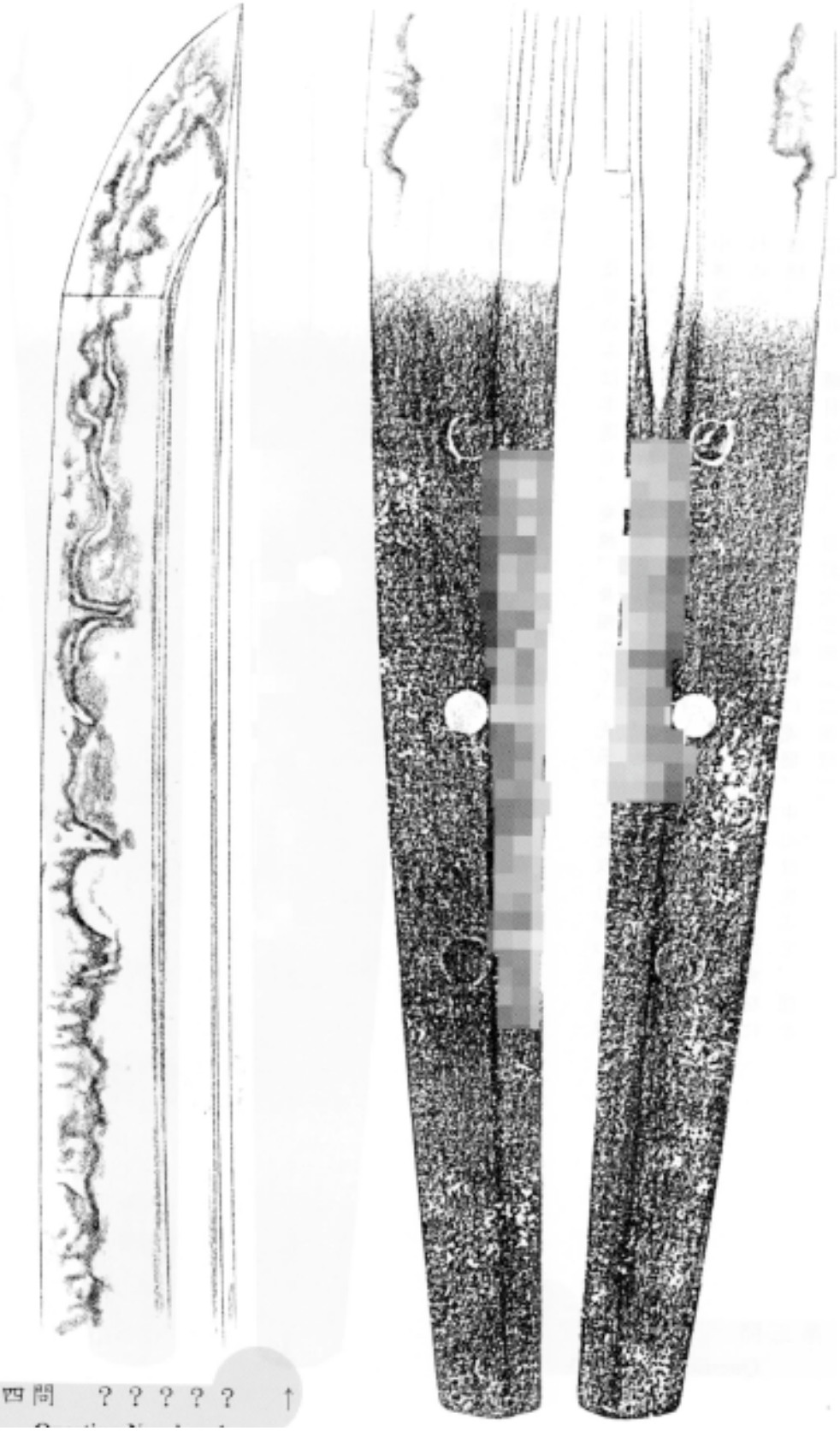
造り込みは表・切刃造り、裏・平造り、真の棟（三ツ棟）。フクラ枯れ、内反り心の整った姿。鍛えは杢目に柾目流れて交じり、良く錬れて肌模様美しく立つ。刃文は拳形風互の目に尖り刃交じり、刃ぶちに小沸つくが、総体匂い出来で、匂い口締まって冴える。鉄子は乱れ込んで地蔵風。彫刻は表裏に二筋樋。中心は生ぶ、鑢目はきり、目釘穴一個。





← 第一問　？？？？？

Question Number 1



第四問　？？？？？　↑